



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報



意識を喚起し 進んで行動を

2000~2001年度 国際ロータリーのテーマ

第670回 平成12年12月 6日(水)

[本日のプログラム]

1. 点 鐘
2. 国 歌 齊 唱
3. ロータリー ソング
「手に手つないで」
4. 「四つのテスト」 唱和
5. 食 事
6. 会長の時間
7. 幹事報告
8. 委員会報告
9. 12月セレモニー
10. 会員卓話
福井 輝文君
11. 点 鐘

次回予告
★12月13日(水)
夜間例会
年次総会

★12月20日(水)
社会奉仕賞贈呈
クラブ協議会

佐土原ロータリークラブ
例会日 毎週金曜日(12:30~13:30) 会長 福井 輝文
例会場 石崎浜荘 ☎0985-73-1913 副会長 梶田與之助
事務局 石崎浜荘大字下野原3887-17 幹事 恒吉 正志
☎880-0212 会計 林 厚雄
fax 0985-73-7170 会費帳 池田 仁志

第669回例会記録 (2000.11.29)

☆会長の時間

会長 梶田 輿之助君

皆さん 今日は。

本日は第669回の例会です。

25日（土）鹿児島市民文化ホールにて開催された「地区大会」に出席された皆様、大変お疲れさまでした。

又、マイクロバスを運転して頂きました林 厚雄君、本当にお世話になりました。感謝致します。

当夜の懇親会、夜の天文館は会員の親睦が深まった最高の一晩だったと感じております。

また、地区現況報告が安満良明ガバナーからあり、当2730地区は6月末で、会員数2,953名でしたが、本年9月末では64クラブ、会員数3,009名（内女性会員39名）で、各クラブとも会員増強に励んでおり、女性の幹事も3名おられ、近い将来女性会長の誕生の可能性があるかもしません、とのこと。

最近景気低迷の中で、殆どのクラブが退会と出席率低下に悩んでおり、その解決のためには、例会、親睦の充実が課題ではないかとの陳述がありました。

今年度より1分区増え、10分区となり、ニューリーダーシッププランの導入で、10名のガバナー補佐が誕生し、公式訪問ではクラブ協議会を指導して頂きました。又、年に数回、分区内のクラブを訪問し、キメ細かい指導をして下さること。職業奉仕は不景気なればこそ、会員1人

1人が4つのテスト、職業宣言の実践を強く意識して欲しい。社会奉仕は各クラブでの数々の個性ある活動があり、地区では特に新世代を対象に8ヶ所で行が開催されているそうで、当クラブとしても、来年5月26日～27日、石崎浜荘で開催の予定です。

宮崎中部分区、IMは来年2月、テーマ『新世代』で開催の予定だそうです。

国際奉仕については、各クラブとも書き損じハガキ回収、古切手回収に取り組み、クラブ独自の国際奉仕に取り組んでいる所もあり、又ロータリー財団の寄付協力を各クラブともされており、特に、延岡東、鹿児島城西、大口RCが上位3クラブだそうです。

米山奨学会については、今一步との事更なる協力をお願いしますと強調されました。米山奨学生については、12月に次年度奨学生の書類選考があり（書類の不備が多いのでチェックをお願いしますとのことです）更に1月に面接選考が実施される予定だそうです。年々応募する学生が増加して、次年度は8人に1人と狹き門になっているようですが、当クラブで推薦しております、李東君が選ばれることを願っております。

☆出席報告

委員長代理 田村勝二君

会員数	28名
例会出席者	20名
出席率	71%
メーティング者数	3名
修正出席率	82%
欠席者名	飼林 鮎嶋

☆幹事報告

幹事 宮原 建樹君

より、来ております。変更及び休会はありませんので、週報では割愛致します。
必要な方は事務所に問い合わせ下さい。

12月の例会案内が西都RCと高鍋RC

☆ゲスト車話

国際交流協会 事務局長 黒木直英氏

① 佐土原町国際交流協会の概要と組織

[概 要]

設立年月日 平成7年4月1日

会員数 約100家族

[組 織]

会長、副会長3名、監事2名、会計2名

総務部、女性青年部、英会話部、文化広報部、いちご会

② 活動状況

[在住外国人交流]

宮崎大学及び宮崎医科大学の留学生やその家族と交流

・食文化交流

・サマーキャンプ

・クリスマスパーティ

・正月を楽しむ（もちつき、羽子板など）

・スキーコンペ（五ヶ瀬ハイランドスキー場）

・男女共同参画事業

[ホームスティ]

平成7年度 アセアン青年（11月）シンガポール学生（12月）

平成8年度 シンガポール青年（6月）マレーシア都城高専留学生（7月）

スリランカガールガイド（9月）世界青年の船（1月、ペルー、豪）

平成9年度 ベトナム教育グループ（9月）マレーシ亞日本語協会（9月）

シンガポール学生（12月）

平成10年度 中国青年（8月）世界青年の船（1月、メキシコ、トンガ）

平成11年度 マレーシア青年学生（5月）シンガポール学生（12月）

平成12年度 マレーシア青年職場体験訪問（4月）シンガポール学生（12月）

〔海外派遣事業〕

平成 7 年度 シンガポール（中学生 15 名）
平成 8 年度 シンガポール（中学生 16 名、高校生 1 名、大学生等 3 名）
シンガポール（お母さん達の再交流）
平成 9 年度 シンガポール（中学生 6 名、大学生 1 名）
マレーシア（お母さん達の再交流事業）
平成 10 年度 マレーシア（中学生 9 名）マレーシア（お母さん達の再交流事業）
平成 11 年度 マレーシア（中学生 16 名、大学生等 2 名）
平成 12 年度 マレーシア（中学生 16 名、人形展 5 名）

③ 活動資金

年会費 2000 円/家族
町補助金 （一般事業）300,000 円/年……うち 200,000 は派遣引率費用、事
業規模により変動
(受入事業) 500,000 円/年……事業規模により変動
その他補助金 朝日生命財団、三井海上文化財団、県国際交流協会、
県女性青少年課（総務庁）

本年度の海外派遣事業について

中学生の夏休みを利用して（8月3日～8月10日）「国際交流派遣事業」が行われ、参加者は佐土原町立の中学生16名（佐土原中2名、広瀬中5名、久峰中9名）と引率者7名（役場2名、教師1名、協会4名）一般参加者7名、そして今年は、マレーシア日本大使館が主催する「ジャパン・フェスティバル」に参加するため「佐土原人形」の窯元である「ますや」さん「陶月」さんから5名、の合計35名がマレーシアを訪問しました。

中学生は2泊3日のホームステイの体験を中心にマレーシアの人、文化など日本との違いや共通点など、体感する事が出来たのではないかと思います。
みんなかけがえのない思い出を作って帰りました。

